

「段取り八分」を考える

— 来年の準備は12月中に終えよう —

開倫塾

塾長 林明夫

Q：「段取り八分(だんどりはちぶ)」とは、どのような意味の言葉ですか。

A：(林。以下略)小学校時代からの親友で、大工をしている渡辺茂(わたなべしげる)さんから教えてもらった言葉です。日本の建築様式で家を建てようとする時、大工さんは、その「準備作業」つまり「段取り」のために、自分の持っている十のエネルギーのうちの八を使うのだそうです。エネルギーの大半を使ってまでも「準備作業」を十分に行えばよい仕事ができる、これが「段取り八分」の言葉の意味です。

Q：「段取り八分」の考えは、勉強にもあてはまりますか。

A：はい、大いに活用可能です。あと1ヶ月もすると新年を迎えますが、皆様は2006年をどのように過ごしたいとお考えでしょうか。新しい年を充実したものにしたいと考えるのであれば、新年を迎えるまでにそれに向けての準備を着々と進めるべきであると私は考えます。

「段取り八分」の心入れで新年を迎えるまでに十分準備すれば、自分の思うような形で新しい年を迎えることができます。何も考えず何も準備しなければ、「時間に流されてしまう」だけの1年になってしまいます。

Q：では、まずはじめに何をしたらよいのでしょうか。

A：小さなものでもよいので、この1年間に何をしたいかという具体的な目標を1つないし2つ決めることです。明確で、かつ具体的な目標があるかないかで、1年間の充実度は天と地ほど違ってきます。

ものごとはすべてと行ってよいほど、「こうしたい」「こうありたい」と思って努力を重ねない限り実現しません。努力をせずともたまたま実現することはありますが、それは本人が有難いことだと思いませんから、大切に思い大事にすることがありません。砂上(さじょう)の樓閣(ろうかく)、つまり砂の上につくられた城のようにあっという間に崩れ去ってしまいます。

小さなものでもよいので、新年を迎えるにあたって具体的な目標を決め、それを達成するための準備を12月早々から着々と進めることをお勧めします。

Q：まず目標を決め、次に、その準備を着々と進めるということですね。

A：はい。目標が決まるということは、「自覚」が生まれるということです。高い学習効果を得るためには、本人の「自覚」が最も必要です。自分自身の「自覚」を促すために、ぜひ明確な目標を決めて下さい。

Q：準備は、どのように進めたらよいのですか。

A：まず、机の上や中など、勉強する周辺を片づけるとよいと思います。その上で、目標を実現させるために行うべきことを1分以上時間をかけて1つ決め、さらに1分以上の時間をかけてやってみてください。

ところで、新しいことをするために1分以上の時間をかけるということは、今までやってきたことをその時間の分だけ中止する、やめるということを意味します。つまり、何かをするためには何かをやめなければならないということです。数ある中から何をやめるかも考え、実際にやめることです。

これには、自分自身の生活を少しだけ変えるという勇気が要ります。「捨てなければ得られない」つまり、何かを捨てなければ得られないこともありますので、何を捨てるかも併せて考えてください。

Q：「捨てなければ得られない」ですか。含蓄のある言葉ですね。

A：20年近く前になりますが、京都の一燈園で石川洋先生から教えていただきました。有難く思い、今も大切にさせていただいております。

師走(しわす)となり何かと忙しいとは思いますが、新しい年に向けての目標づくりとその準備について考えるために、時にはゆっくり立ち止まってみてはいかがでしょうか。